

沖縄キリスト教短期大学
2017年度 後期
授業評価アンケート結果報告書

2018年5月28日

IRセンター

はじめに

2017年度後期の授業評価アンケートを同年1月（当該学期末に近い時期）に実施し、73科目、156クラスについて分析を行った。分析に供された評価表は、3,655件であった。評価は5段階法を採用しており、1点から徐々に上がり、5点を最高の評価としている。ただし、質問6、8においては、各数値に時間、割合をそれぞれ配置している。

学生による数値的回答による評価と自由記述による評価の2点についてみていく。

【文章内の表・グラフについて】

文章内に記載の表やグラフは、次のような表・グラフになります。

- ・短大の全ての授業を総合した評価を「全学科」、各科・系の授業を評価したものをそれぞれ「総合教育系」「英語科」「保育科」として、回答（評価）の割合（%）を表で示しました。
- ・先に述べた回答（評価）割合を、積み上げ100%横棒グラフで示し、「評価4及び5」と回答した割合について前年度同期との差分を横棒グラフで示しました。

1. 数値的回答による評価

学科名：全体	73 科目 156 クラス	回答数：3655
--------	---------------	----------

▼ 全学科

記述統計量^a

	度数	各評価の割合					平均値	標準偏差	
		5	4	3	2	1			
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	3654	75.4%	18.6%	5.5%	0.3%	0.2%	4.69	.604
	2. 授業を乱す行為をしない	3655	71.4%	20.1%	7.3%	0.7%	0.5%	4.61	.695
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	3655	70.5%	20.2%	7.9%	1.1%	0.3%	4.59	.708
	4. 積極的な参加	3653	68.4%	20.9%	9.6%	0.9%	0.2%	4.56	.719
	5. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	3642	65.6%	20.1%	11.1%	2.2%	1.0%	4.47	.853
	6. 予習及び復習の合計時間	3644	19.1%	7.0%	14.1%	27.3%	32.6%	2.53	1.479
	7. 遅刻はない	3629	70.6%	14.2%	8.7%	4.1%	2.4%	4.47	.977
	8. 授業における出席状況	3645	42.9%	30.3%	18.7%	6.2%	1.8%	4.06	1.010
II 学習環境の評価	9. 授業中の質問する機会や工夫	3655	74.1%	17.4%	6.8%	1.3%	0.3%	4.64	.694
	10. 適切な授業の開始・終了時間	3653	82.9%	12.4%	4.1%	0.5%	0.1%	4.78	.541
	11. メリハリのある授業の進め方	3652	79.4%	13.9%	5.4%	1.0%	0.2%	4.71	.635
	12. 理解や興味を引き出す工夫	3653	75.5%	15.6%	7.1%	1.3%	0.5%	4.64	.713
	13. 教員としての相応しい発言や態度	3654	81.1%	12.9%	5.3%	0.5%	0.2%	4.74	.589
	14. 学習環境、受講生のマナーの維持	3652	76.8%	16.0%	6.2%	0.6%	0.4%	4.68	.649
	15. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	3655	78.2%	14.3%	6.2%	0.8%	0.4%	4.69	.661
	16. 適切な授業の進度	3654	79.7%	14.0%	5.5%	0.7%	0.2%	4.72	.607
	17. 学んだという達成感	3655	76.3%	15.7%	6.4%	1.1%	0.5%	4.66	.693

質問 6 の回答欄 (⑤3 時間以上、④3 時間程度、③2 時間程度、②1 時間程度、①0 時間)

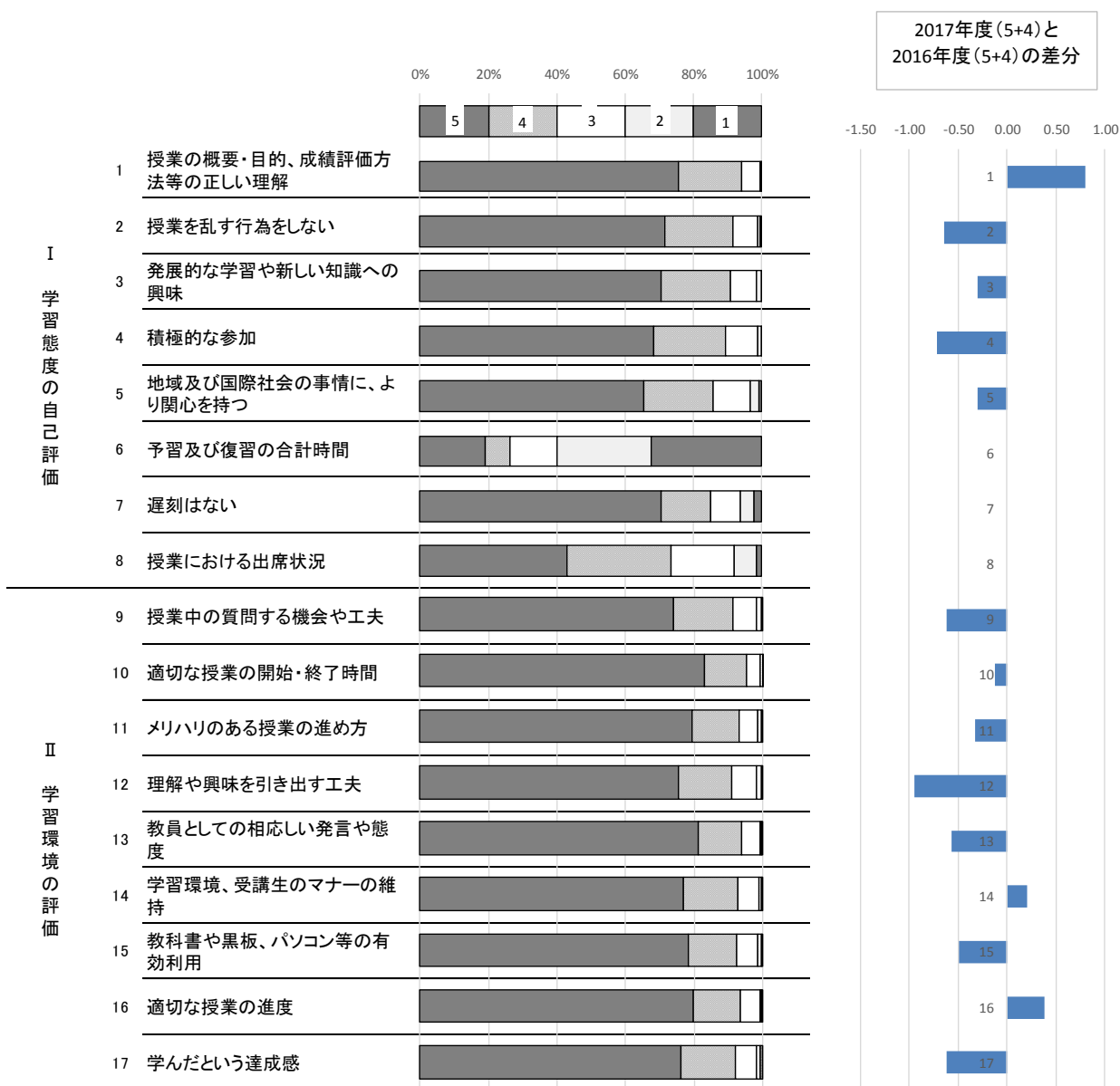
質問 8 の回答欄 (⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下)

まず、質問 6 を除いた 16 個の質問において平均値が 4.0 以上であった。このことより今期授業に対する学生の評価は高いといえる。

質問 6 の平均値は 2.53 と低かった。特に評価 1 の割合、つまり予習復習をまったくしていない割合が 32.6%あった。一方で 2 時間以上 (評価 3、4、5 の合計) が約 40%、その中でも「3 時間以上」は 19.1%であった。学籍番号がわかる範囲で、さらに詳しくみていくと、1 年生より 2 年生の方が (予習復習の) 時間が長いと答えている学生が多かった。

予習復習は、授業への理解度を助けるとともに学習する習慣を身につけることが大きなメリットとして挙げられる。しかし、予習復習に慣れていない学生にとっては難しい問題である。効果的な予習復習の方法を授業において勧めることも必要であろう。

▼全学科（グラフ）



上記左側のグラフから、質問 6、8 以外の質問において評価 4 及び 5（以降「評価 4、5」と記載）の割合が高いことが確認できる。右側のグラフからは質問 1、14、16 が前年度同期と比較してプラスになっている。

前年度同期と比較できる 14 項目のうち、先の 3 項目以外の 11 項目については棒グラフがマイナスになっている。その中でも質問 12「理解や興味を引き出す工夫」のマイナス率が大きいのが、評価 4、5 の割合が 91%という高い数値であることと、例年、後期における授業評価アンケートは、1～2%の差でよく変動があることを考慮すると、ほぼ前年度同期との違いはみられない。（ただし各授業における振り返りを妨げるものではありません）

学科名：総合教育系	14科目 23クラス	回答数：683
-----------	------------	---------

▼ 総合教育系

記述統計量^a

	度数	各評価の割合					平均値	標準偏差	
		5	4	3	2	1			
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	683	75.4%	18.3%	5.6%	0.4%	0.3%	4.68	.625
	2. 授業を乱す行為をしない	683	76.0%	16.5%	6.3%	0.4%	0.7%	4.67	.681
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	683	66.3%	22.1%	8.9%	1.9%	0.7%	4.51	.795
	4. 積極的な参加	683	65.7%	21.2%	11.4%	1.6%	0.0%	4.51	.759
	5. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	679	63.5%	20.2%	12.5%	2.7%	1.2%	4.42	.892
	6. 予習及び復習の合計時間	682	11.1%	6.0%	10.1%	30.8%	41.9%	2.14	1.322
	7. 遅刻はない	677	71.8%	14.3%	8.0%	4.3%	1.6%	4.50	.929
	8. 授業における出席状況	680	37.4%	31.8%	19.9%	9.9%	1.2%	3.94	1.035
II 学習環境の評価	9. 授業中の質問する機会や工夫	682	71.7%	16.4%	9.2%	2.2%	0.4%	4.57	.785
	10. 適切な授業の開始・終了時間	681	83.1%	11.0%	5.1%	0.7%	0.0%	4.77	.572
	11. メリハリのある授業の進め方	682	77.9%	13.3%	6.9%	1.8%	0.1%	4.67	.695
	12. 理解や興味を引き出す工夫	681	72.5%	16.4%	7.9%	2.3%	0.7%	4.58	.795
	13. 教員としての相応しい発言や態度	681	77.5%	12.8%	8.2%	1.3%	0.1%	4.66	.697
	14. 学習環境、受講生のマナーの維持	680	72.5%	18.2%	7.1%	1.3%	0.9%	4.60	.753
	15. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	682	76.8%	14.2%	7.5%	0.7%	0.7%	4.66	.712
	16. 適切な授業の進度	682	78.2%	13.6%	6.6%	1.6%	0.0%	4.68	.668
	17. 学んだという達成感	682	71.0%	17.6%	8.8%	1.9%	0.7%	4.56	.791

a. 学科 = 総合教育系

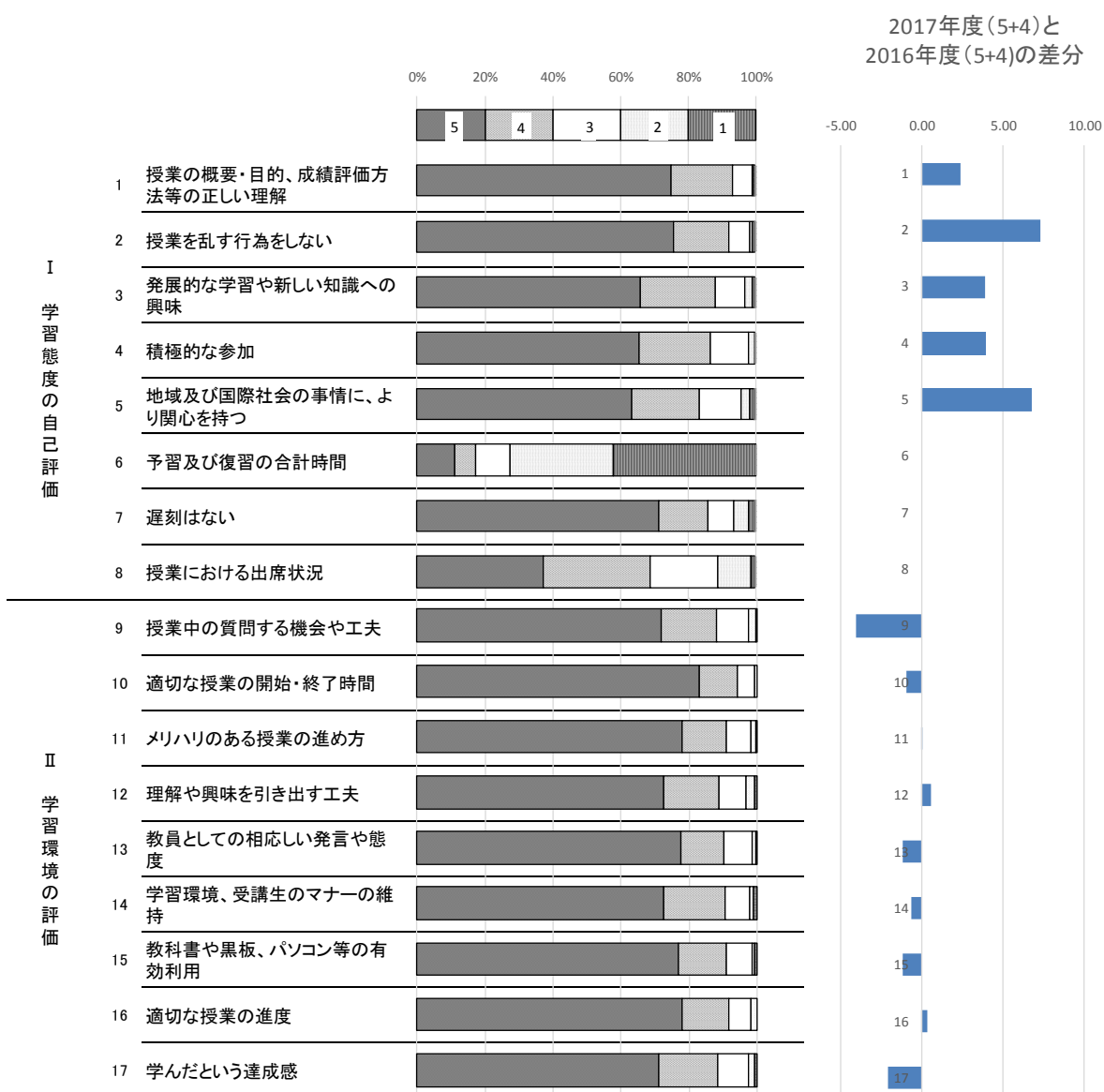
質問6の回答欄（⑤3時間以上、④3時間程度、③2時間程度、②1時間程度、①0時間）

質問8の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

総合教育系の授業は、質問6、8以外の項目の平均値が4.4以上であり、概して評価は高い。質問6「予習復習の合計時間」は平均値2.14と非常に低く、さらに0時間と答えた割合は41.9%と非常に多い。この予習復習時間の少なさと合わせて、質問16や17にみられる高い評価をみると、予習復習時間が0時間でも、授業の進行や理解に支障がなかった、ととることができる。授業単位でなく、系全体として取り組む必要があるだろう。

総合教育系の今期開講の23クラスのうち35人以上のクラスが8クラスあり、そのうち50人以上の多人数クラスは5クラスあった。人数が多いと教員の目が行き届きにくく、評価が低くなりがちだが、このようなクラスにおいても（質問6、8を除く）授業の評価は良かった。

▼総合教育系（グラフ）



上の右側のグラフから、「Ⅰ学習態度の自己評価」の8項目のうち、前年度同期と比較することができる5項目全てにおいてプラスになっていることが確認できる。特に質問2「授業を乱す行為」と質問5「地域及び国際社会」の2項目は前年度同期より7%前後のプラスに伸びており、前年度同期より改善しているといえる。

「Ⅱ学習環境の評価」では、9項目中プラスが3項目、マイナスが6項目あった。プラスの項目については、伸び率が0.03~0.6%とほとんど変わらないのに対し、マイナスの伸び率は大きいもので約4%の項目がみられる。

学科名：英語科	26 科目 28 クラス	回答数：688
---------	--------------	---------

▼ 英語科

記述統計量^a

	度数	各評価の割合					平均値	標準偏差	
		5	4	3	2	1			
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	688	68.2%	23.3%	8.1%	0.3%	0.1%	4.59	.663
	2. 授業を乱す行為をしない	688	55.7%	27.5%	14.0%	1.7%	1.2%	4.35	.867
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	688	55.7%	26.7%	15.1%	2.2%	0.3%	4.35	.835
	4. 積極的な参加	687	51.8%	28.1%	16.9%	2.6%	0.6%	4.28	.876
	5. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	683	46.3%	26.2%	20.9%	5.4%	1.2%	4.11	.992
	6. 予習及び復習の合計時間	685	7.7%	6.7%	16.1%	39.6%	29.9%	2.23	1.173
	7. 遅刻はない	678	54.9%	16.8%	11.7%	9.0%	7.7%	4.02	1.310
	8. 授業における出席状況	682	18.0%	33.3%	29.8%	12.9%	6.0%	3.44	1.108
II 学習環境の評価	9. 授業中の質問する機会や工夫	688	61.9%	24.1%	10.5%	3.1%	0.4%	4.44	.832
	10. 適切な授業の開始・終了時間	688	81.0%	13.5%	5.1%	0.4%	0.0%	4.75	.562
	11. メリハリのある授業の進め方	687	71.3%	19.5%	7.0%	1.6%	0.6%	4.59	.740
	12. 理解や興味を引き出す工夫	687	64.2%	21.1%	11.9%	2.2%	0.6%	4.46	.830
	13. 教員としての相応しい発言や態度	688	76.0%	16.9%	6.8%	0.3%	0.0%	4.69	.608
	14. 学習環境、受講生のマナーの維持	688	72.8%	16.9%	9.3%	0.6%	0.4%	4.61	.715
	15. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	688	73.5%	16.4%	8.1%	1.2%	0.7%	4.61	.747
	16. 適切な授業の進度	688	73.0%	18.3%	8.0%	0.7%	0.0%	4.64	.660
	17. 学んだという達成感	688	65.7%	19.9%	11.3%	2.3%	0.7%	4.48	.839

a. 学科 = 英語科

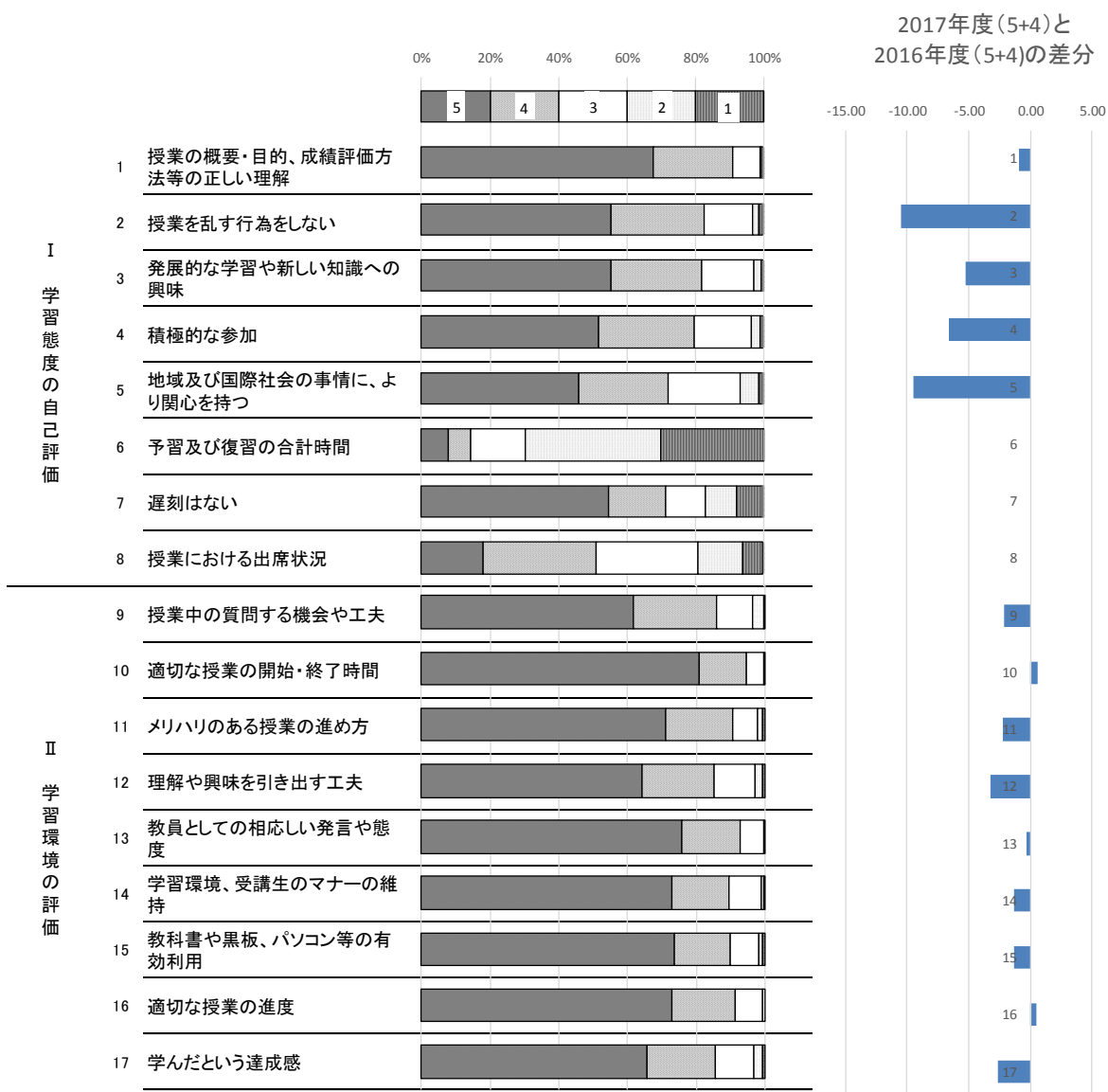
質問 6 の回答欄 (⑤3 時間以上、④3 時間程度、③2 時間程度、②1 時間程度、①0 時間)

質問 8 の回答欄 (⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下)

英語科の授業は、質問 6、8 以外の項目の平均値が 4.0 以上であり、概して評価は高い。質問 6「予習復習の合計時間」は平均値 2.23 と非常に低く、さらに 0 時間と回答した割合は約 30%であった。また 2 時間以上 (評価 3、4、5 の合計) も約 30%であった。予習復習の時間は「必修 (または選択必修)」と「選択」科目で割合が変わっており、必修の科目において予習復習時間が長い傾向にある。

「II 学習環境の評価」では全ての質問において平均値が高く学生からの評価が高いといえる。今後は、このような学習環境に対する高い評価が、今回平均値の低かった出席状況や予習復習時間などの学生の自主性につながることを望まれる。

▼英語科（グラフ）



上の左側のグラフから、質問 5、6、7、8 以外の 13 項目において、評価 4、5 の割合が全て 80% 以上であった。質問 6 は評価が低く、評価 1 または 2 と回答した割合が約 70% にのぼる。カテゴリー別でみていくと「I 学習態度の自己評価」の 8 項目では各評価の割合にばらつきがみられたが、「II 学習環境の評価」の 9 項目では、棒グラフの割合は似た傾向にある。これにより、学生によって授業に対する姿勢のばらつきが感じられる。

右側のグラフからは、多くの項目で前年度同期からマイナスに転じていることが確認できる。プラスになっているのは質問 10、16 の 2 項目のみであり、12 項目はマイナスである。特に、I のカテゴリーに含まれる 3 項目はマイナスの伸び率が 8% 以上で非常に高い。このことは学生の授業への積極性が低下していると考えられる。

学科名：保育科	33 科目 105 クラス	回答数：2285
---------	---------------	----------

▼ 保育科

記述統計量^a

	度数	各評価の割合					平均値	標準偏差	
		5	4	3	2	1			
I 学習態度の自己評価	1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解	2283	77.6%	17.3%	4.6%	0.3%	0.2%	4.72	.576
	2. 授業を乱す行為をしない	2284	74.8%	19.0%	5.5%	0.5%	0.2%	4.68	.618
	3. 発展的な学習や新しい知識への興味	2284	76.2%	17.7%	5.3%	0.6%	0.2%	4.69	.613
	4. 積極的な参加	2283	74.2%	18.6%	6.8%	0.2%	0.1%	4.67	.623
	5. 地域及び国際社会の事情に、より関心を持つ	2280	72.0%	18.2%	7.7%	1.1%	1.0%	4.59	.759
	6. 予習及び復習の合計時間	2277	24.9%	7.3%	14.7%	22.5%	30.6%	2.74	1.565
	7. 遅刻はない	2274	74.9%	13.5%	8.0%	2.5%	1.1%	4.59	.825
	8. 授業における出席状況	2283	52.0%	29.0%	15.1%	3.2%	0.7%	4.29	.880
II 学習環境の評価	9. 授業中の質問する機会や工夫	2285	78.6%	15.7%	5.0%	0.6%	0.2%	4.72	.598
	10. 適切な授業の開始・終了時間	2284	83.5%	12.5%	3.5%	0.4%	0.1%	4.79	.525
	11. メリハリのある授業の進め方	2283	82.3%	12.4%	4.5%	0.6%	0.2%	4.76	.574
	12. 理解や興味を引き出す工夫	2285	79.7%	13.7%	5.4%	0.8%	0.4%	4.72	.632
	13. 教員としての相応しい発言や態度	2285	83.8%	11.8%	3.9%	0.3%	0.3%	4.79	.543
	14. 学習環境、受講生のマナーの維持	2284	79.2%	15.1%	5.0%	0.4%	0.2%	4.73	.588
	15. 教科書や黒板、パソコン等の有効利用	2285	80.0%	13.7%	5.2%	0.8%	0.2%	4.73	.614
	16. 適切な授業の進度	2284	82.3%	12.7%	4.4%	0.4%	0.3%	4.76	.566
	17. 学んだという達成感	2285	81.0%	13.9%	4.2%	0.6%	0.4%	4.75	.590

a. 学科 = 保育科

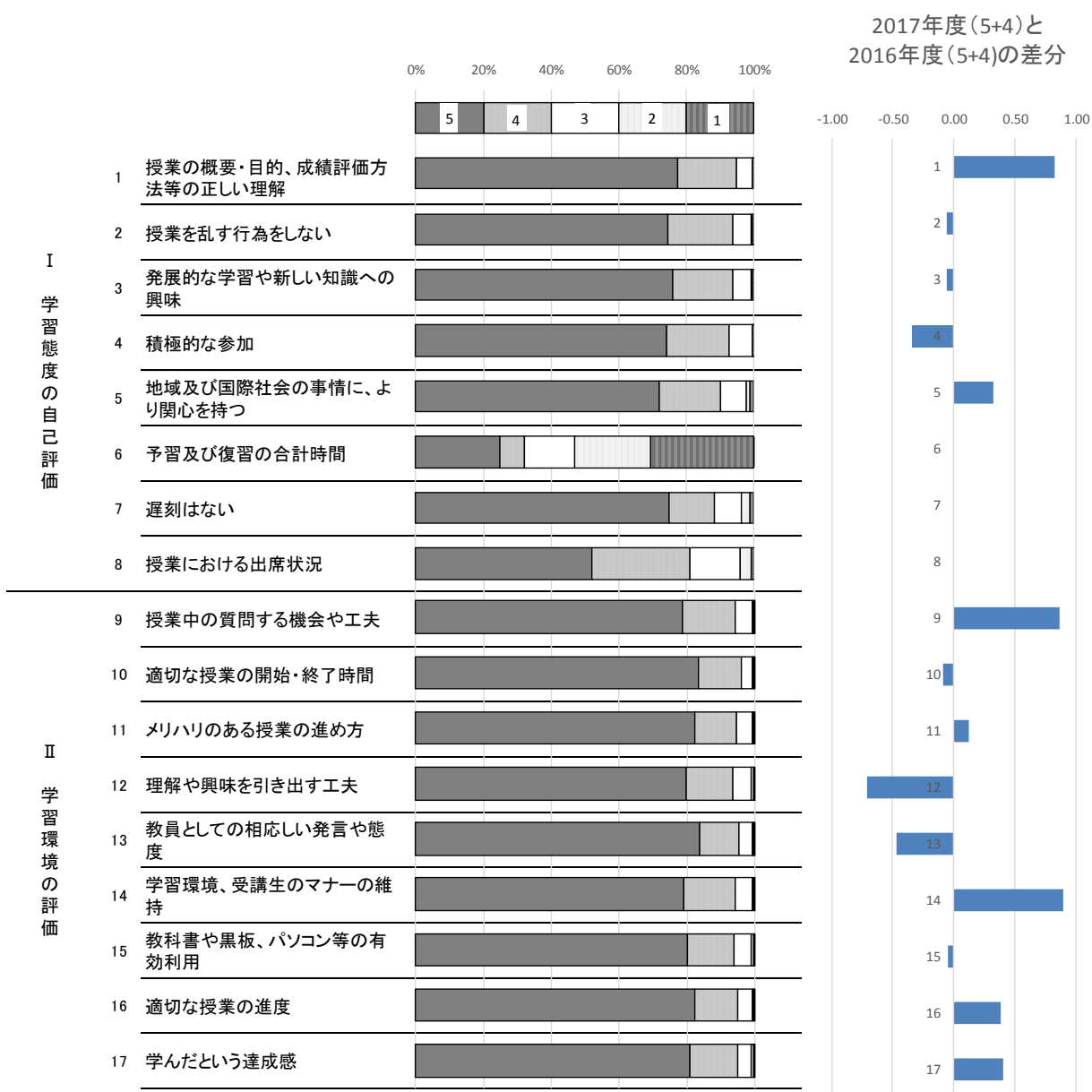
質問 6 の回答欄 (⑤3 時間以上、④3 時間程度、③2 時間程度、②1 時間程度、①0 時間)

質問 8 の回答欄 (⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下)

保育科の授業は、質問 6 以外の項目の平均値が全て 4.2 以上であり、概して評価は高い。質問 6 では、0 時間と回答した割合が 30.6% と高いものの、2 時間以上 (評価 3、4、5 の合計) が 46.9% であり、その中で 24.9% が 3 時間以上であった。保育科の授業は技術習得のための授業においても一定の学生は 2 時間以上の予習復習時間を確保している。一方、知識習得型の授業でも、評価 1 が一定割合みられる。また質問 6 の結果は、授業毎での違いもみられるため、学生の授業への姿勢を確認する意味でも今回の結果を授業の振り返りに利用してほしい。

「I 学習態度の自己評価」の各項目の評価も高いのですが、「II 学習環境の評価」の 9 項目は全ての項目において 4.7 以上と非常に高い数値であった。教員による学習環境への配慮や工夫が今回の結果に表れている。

▼保育科（グラフ）



上記左側のグラフから、質問 6 以外の 16 項目において評価 4、5 の割合が、質問 8 では 81.1%、質問 7 では 88.4%、他 15 項目で 90% 以上であり、総じて評価が高いといえる。

右側のグラフから、前年度同期よりプラスになっているのが 7 項目、マイナスになっているのが 7 項目あったが、どれも 1% 未満の伸び率であり大きな変化はないといえる。

今回の授業評価の分析より、主に2点のことが考えられる。

1. どんな授業を自分は受けているのか、学生が理解している

「1. 授業の概要・目的、成績評価方法等の正しい理解」の評価が前年度同期と比較してわずかだが評価が高くなっていた。この項目については、毎年評価が上がっており、授業についての学生への周知が強化されてきた結果と考えられる。次の段階として、各授業の目的が達成されたかどうかをチェックする、つまり、学生が授業をとおして知識・見解を広げられたかを確認できるような調査ができるようになることよい。しかし現在のアンケートでは、それをチェックするための項目がないため、アンケートを見直し修正していくか、別の方法によるチェック方法を模索する必要があるだろう。

2. 自学自習の時間を増やす取り組みが必要

自学自習の少なさは例年の課題であり、0時間の回答割合については、とくに注視すべきものがある。さらに「Ⅱ学習環境の評価」とも合わせて考えると、予習復習時間が0時間にも関わらず、質問16、17（授業の理解度を示す質問）の評価が高いのは、高等教育機関として憂慮すべき点である。また他の学生のモチベーションにも影響を与える心配がある。自学自習は、学生の自主性はもちろんだが、教員による働きかけや自習しやすいような環境づくりも同様に大切である。

学生の皆さんには、このアンケート結果を自身の勉強スタイルと比較して、今後の大学生活の見直す材料としてぜひ活用してください。また、教員からの学生に対するフィードバック（コメント）もぜひ確認してください。

教員の皆さんは、この結果を毎年度、毎学期の授業の振り返りの参考資料としていただければと思います。

2. 自由記述による評価

【総合教育系】

本学の特徴ともいえるキリスト教学を含む総合教育系の授業は、本学において教養科目を担っている。学生から「わかりやすい」「理解が深まった」等のコメントがあり、他の授業も含めて、教員による授業の創意工夫がうかがえる。一方、授業中の私語やそれに対する教員の対応について言及しているコメントが多くみられる。以前からこれと同じような声がある。早急に対応が必要だろう。

【英語科】

コメントに「(授業が) 楽しい」「わかりやすく教えていた」「(先生が) 優しい」という記述が多く、具体的にコメントされており、教員による授業の創意工夫がとても感じられる。また「リスニングやリーディングができるようになった」、「英語で話せるようになった」「ためになった」など自己評価で成長を感じているコメントが散見できる。実感する成長を客観的数値として示せるようになるとさらに良いと思われる。

【保育科】

「(授業が) 楽しい」という声が多く、教員に対する好意的コメントも多い。また「前期よりわかるようになった」というコメントもあり、理解が深まるとともに実践的な学びを得ていると感じられる。教員の知識や経験が学生にとって理解の助けになっており、保育士としての心構えを持つことにも寄与していると思われる。一方で「わかりづらい」というコメントも見受けられ、学生の理解度を定期的にチェックする仕組みづくりが必要だろう。